

NEAR News

一つの北東アジア、一つの共同体 NEAR | One Northeast Asia Region, One Community NEAR

2016. 11-12

Vol. 71



第4回NEAR青少年エッセイ・絵画等コンテスト(絵/ポスター部門)最優秀賞受賞作品

今月の動静

NEARの活動 | 事務局ニュース | 会員自治体の動静 | 会員自治体の行事日程(11~12月)

企画取材

第11回NEAR総会

2016北東アジア青年リーダースフォーラム後記

第4回NEAR青少年エッセイ・絵画等コンテスト(絵/ポスター部門)受賞作品の紹介



北東アジア地域自治体連合
The Association of Northeast Asia
Regional Governments

NEAR News

「NEAR News」は、会員自治体が共に作るNEARの公式ニュースレターです。NEARの活動状況や会員自治体の動静、国際動向、寄稿、お知らせなどの内容を掲載し、隔月で発行しています。(ホームページでもご覧いただけます。 <http://www.neargov.org/jp/>)

NEAR Newsではいつでも、北東アジア地域に関心を持つ方からの寄稿をお待ちしています。掲載を希望される場合は、巻末の事務局連絡先までお問い合わせください。



Vol. 71





北東アジア地域自治体連合(NEAR)とは

北東アジア地域自治体連合(NEAR)は、北東アジア地域の共同発展を目指して1996年に設立された、広域自治体間の協力機構です。

日本、中国、韓国、モンゴル、ロシア、北朝鮮の6か国から82自治体(77会員、5オブザーバー)が参加し、経済・人文、教育文化交流、環境、防災、国境地区協力、科学技術、観光、海洋漁業、鉱物資源開発・調整、エネルギー・気候変動、女性・児童、生命・医療産業、農業などの様々な分野で、幅広い交流協力プログラムを展開しています。

また、欧州最大の地方政府協力機構であるAER(欧州地域会議)、R-20(気候行動地域)、ICLEI(持続可能性をめざす自治体協議会)などの国際機構とパートナーシップを締結し、北東アジアを越えた世界中と繋がる国際協力ネットワークを構築しています。

NEARの門戸は開かれています。

NEARの設立趣旨に賛同する北東アジア地域の広域自治体は、どこでも、総会の承認を経てNEARに加入することができます。



北東アジア地域自治体連合
The Association of Northeast Asia
Regional Governments

NEAR活動

第4回NEAR青少年エッセイ・絵画等コンテストの実施

2016年4月から8月までの5か月間、NEAR事務局が「第4回NEAR青少年エッセイ・絵画等コンテスト」を実施した。

同コンテストは、北東アジアの未来を担う青少年達に、北東アジア地域における社会・経済事情や文化等への関心を深めてもらうことを目的として2013年から実施している。

4回目の開催を迎えた今年は、既存の「エッセイ部門」に加え、「絵/ポスター部門」を新設し、作品の募集を行った。

審査の結果、エッセイ部門では韓国・慶尚北道のペ・ガヒョンさんが、絵/ポスター部門ではロシア・サハ共和国のマルコバ・サイーナさんが最優秀賞を受賞した。

これに合わせ、9月22日、NEAR事務局で韓国在住の受賞者への授賞式を実施。エッセイ部門の最優秀賞・奨励賞受賞者、絵/ポスター部門の優秀賞受賞者が出席し、全哉垣NEAR事務総長から賞状・副賞を受け取った。



第11回NEAR総会の開催(9月26日～28日)

9月27日から28日まで、ロシア・イルクーツク州で第11回NEAR総会が開催され、中国、日本、韓国、モンゴル、ロシアの5か国30自治体の代表ら約150名が参加した。

総会では、中国・陝西省、内モンゴル自治区、山西省、安徽省の4自治体が新規会員として加入したほか、会費運営規程の制定、準会員制導入を骨子とした連合憲章の改定、エネルギー・気候変動分科委員会コーディネイト団体の交代等が決定された。

また、NEARが創立20周年を迎えたことから、フィルハーモニー国立劇場で記念行事が開催され、各国の会員自治体代表によるNEARの新しいビジョンについての共同宣言や写真展、慶尚北道道立国楽団・イルクーツク伝統芸術団による祝賀公演などが行われた。

NEAR議長であるレフチェンコ・セルゲイイルクーツク州知事からは、「NEARが創立20周年を迎え、北東アジア各国の調和のため、地方自治体

レベルでの相互交流や協力が一層推進されていくことを願う。」と歓迎の挨拶が述べられた。

また、全哉垣NEAR事務総長は、「NEARは過去20年間、基本理念である互恵と平等の精神に基づき、北東アジア地方自治体間の交流と協力のため大きな役割を果たしてきた。今後も会員自治体が共同发展できる環境を造成していくために最善を尽くしたい。」と開会挨拶を述べた。



2016NEAR国際フォーラムの開催11月25日～26日)

11月25日から26日まで、「2016NEAR国際フォーラム」が韓国・慶尚北道安東市で開催される。

同フォーラムでは、「観光を通じた北東アジアの協力と発展」をテーマに、観光と地域の発展、持続可能な観光と国際協力、北東アジア相互の観光協力について各国の専門家による発表・討論が行われる予定であり、会員自治体職員、関係機関・観光業関係者等約300名が参加する見込み。

また、会場には観光広報ブースが設けられ、会員自治体の観光・物産PRが実施される。(詳細はNEARホームページに掲載。)



事務局ニュース

UCLG ASPAC 総会に出席

全哉垣NEAR事務総長は9月5日、韓国・全羅北道群山市で開催された「都市・自治体連合アジア太平洋支部(UCLG ASPAC)」の総会に出席した。UCLGは、世界136か国、1,000以上の地方自治体が加入する世界最大の国際機構であり、地方自治体間のネットワーク支援や知識交流の場として、全世界の地方自治体における国際連合のような役割を果たしている。総会では、全事務総長とボナディア・テンドゥラデウィUCLG ASPAC事務総長が面会し、今後の両機関の協力方案について話し合った。



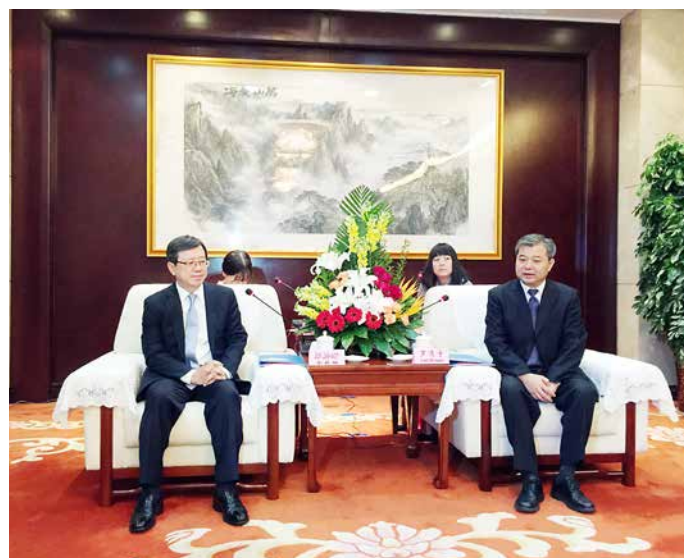
2016太原エネルギー低炭素発展フォーラムに出席



全哉垣NEAR事務総長は9月7日、中国・山西省で開催された「2016太原エネルギー低炭素発展フォーラム」及び「中国太原国際エネルギー産業博覧会」に出席した。

山西省は、今年9月に開催されるNEAR総会において会員自治体として新規に加入する予定であり、エネルギー・気候変動分科委員会のコーディネートを希望するなど、エネルギー産業に高い関心を示している。

同行事への出席と合わせて、全事務総長は羅清宇・山西省副省長と面談し、NEARへの加入と継続的な経済協力、文化交流方案について協議を行った。



中国からの新規派遣駐在官を任命

9月9日、中国・吉林省から新たにNEAR事務局に派遣された史書遙氏の任命式が行われた。史氏は今後1年間、駐在官として中国会員自治体との連絡調整業務等を担当する。

史氏は韓国語が堪能で韓国文化にも明るいことから、事務局内での円滑なコミュニケーションや、様々な業務に取り組んでいくことが期待される。



会員自治体の動静

日本-石川県

第29回JAPAN TENT 開催

石川県では、1988年から毎年、夏に「JAPAN TENT」を実施しています。JAPAN TENTは、日本各地で学ぶ世界各地からの留学生約300人を石川県に招いて開催する国際交流イベントです。日頃は研究と学習に多忙な留学生に、県内各地でホームステイしながら、日本の社会、文化、生活などについて意見を交換し、また県民との交流を通じて日本の姿を理解してもらいます。これまで166の国と地域から9,600人を超える留学生が参加しました。

今年の夏も「ふるさと愛」を総合テーマに、8月18日から7日間、県内19全市町で行い、石川県が受け継いできた伝統文化や豊かな自然に触れていただきました。留学生は、県内の一般家庭でホームステイを体験し、家族の一員として日常の暮らしを体験し、言葉や文化の壁を超えた交流が行われました。

このジャパンテントは、ホストファミリーや石川県各市町のスタッフ、地元の大学生など、多数のボランティアが数カ月間、準備から開催まで活躍します。来年は、第30回大会となります。皆様の国・地域から、日本に留学している方がいらっしゃいましたら、ぜひ来年のJAPAN TENTへのご応募を勧めてみてください。



「2016年8月18日付北國新聞夕刊」

日本-福井県

「海外赴任者生活安全セミナー」の開催

福井県では2016年4月の組織改正により「国際経済課」が設置され、海外との経済交流、友好交流を一体的に推進しています。産業や農業など、様々な面で国際的な競争力を高めることが求められる中、県内企業のビジネス拡大の支援や、海外バイヤー等の県内視察の実施などを行っています。また、県国際交流協会との連携を図りながら、新たな事業を展開しています。

その一つとして、「海外赴任者生活安全セミナー(東南アジア編)」を8

月に開催しました。海外赴任予定者やそのご家族、企業の担当者などを対象に、海外に赴任した経験のある講師をお迎えして、各国の経済情勢や現地の生活・医療・教育事情の解説などを行いました。参加者からは「海外の最新情報がわかってよかった」などと好評を得、12月には中国編の開催を予定しています。

また、駐日総領事館等と協力し、10月にはベトナム、12月にはインドネシアの投資や貿易政策・ビジネス環境などに関するセミナーを開催し、企業の海外進出を応援するとともに、本県の企業や観光地などのPRも積極的に行っています。



韓国-世宗特別自治市

韓国各地のフードトラックが世宗に集結！



10月7日から9日までの世宗フェスティバルの期間中、世宗特別自治市が世宗湖水公園で「2016世宗フードトラックフェスティバル」を開催した。

世宗市が青年創業、雇用創出、小資本創業の機会を提供するために開催した同フェスティバルには、前回「最高のフードトラック」に選ばれ世宗市長賞を受賞した「ハングリー・ベア(ソウル市)」をはじめ、世宗市第1号のフードトラック「チュロス・ファクトリー(世宗市)」、「クルビタ

ッカンジョン(慶尚南道・巨済市)」、ホットドッグソーセージの「出張スナッカー(大邱市)」、フライドポテトで有名な「ヒーリングキッチン(仁川市)」等、去年の第1回大会をはるかに越える32台のフードトラックが参加した。

メニューも多様であり、炭火焼きバーベキュー、たこ焼き、ピザ、ホットドッグ、チュロス、ステーキ、ハンバーガー、焼き鳥、パネスープ、コーヒーはもちろんのこと、スンデ、おでん、ホットク、そば煎餅、豚カルビといった韓国の伝統食まで約100種類を味わえる機会となった。会場では多彩なクラシック公演や路上ライブ公演等の文化行事も行われ、参加者の好評を得た。

李春熙世宗市長は、「去年、韓国で初めて開催されたこのフードトラックフェスティバルは来場者の約45%が観光客であり、地域経済に大きくプラスとなった。今年はさらに規模が拡大し、メニューもはるかに多様になった」と述べた。

韓国-江原道

ミンドゥン山ススキ祭り2016の開催

9月24日から11月13日まで、江原道旌善郡ミンドゥン山一帯で「ミンドゥン山ススキ祭り」が開催される。全体が丸みを帯び、果てしない広野のような印象を与える標高1,119mのミンドゥン山が約20万坪のススキに覆われる姿は壮観である。この祭りは、韓国五大ススキ群落地の一つでもある美しいミンドゥン山を人々に知ってもらうために毎年開催されおり、トレッキングを愛する全ての人のため、登山大会も行われている。

山菜の生育を促すために毎年1回山に火を付けるため、ミンドゥン(韓国語で「はげ」の意。)の名のとおり、頂上には木が無く、山の稜線一帯はススキ畑となっている。稜線に沿って頂上まで到達するには、約30分の間、ススキ畑の中を進まなければならない。

ミンドゥン山には、その昔、空から降りてきた一頭の馬が主人を探すため15日間山をさまよったことから、その後木が育たずにススキばかり生えるようになったという逸話が残されている。



モンゴル-ヘンティ県

第7回モンゴル・中国マスメディアフォーラムの開催

8月19日から21日まで、ヘンティ県チンギス市で「第7回モンゴル・中国マスメディアフォーラム」が開催された。フォーラムにはモンゴル・中国の報道機関関係者や非政府機関の代表ら約90名が参加し、両国の交流関係及び報道機関の協力をテーマに講演や議論が行われた。チョクトゥパタルモンゴル国会議員による国際関係に関する基調講演に続き、両国からそれぞれ6名の発表者がテレビ、ラジオ、新聞、電子雑誌及び国際交流協力について興味深い講演を行った。参加者はその後ヘンティ県・ハルジュルフニフ湖を視察。次回は2017年8月に中国・内モンゴル自治区フフホト市で開催される予定。



November

2016. 11

Sunday	Monday	Tuesday	Wednesday	Thursday	Friday	Saturday
20	21	- 自治体：韓国 大邱広域市 - 行 事：2016 大邱国際機械産業展、第17回大邱国際自動化機械展 - 期 間：11/23～11/26 - 場 所：大邱EXCO - 連絡先：DAMEX事務局 (T)+82-53-601-5229	- 自治体：韓国 大邱広域市 - 行 事：第5回大邱国際ロボット産業展 (ROBEX) - 期 間：11/23～11/26 - 場 所：大邱EXCO - 連絡先：ROBEX事務局 (T)+82-53-601-5236	24	- 自治体：NEAR事務局 - 行 事：2016 NEAR国際フォーラム - 期 間：11/25～11/26 - 場 所：安東市 グランドホテル - 連絡先：NEAR事務局 (T)+82-54-223-2324 (F)+82-54-223-2307	26
27	28	29	30			

December

2016. 12

Sunday	Monday	Tuesday	Wednesday	Thursday	Friday	Saturday
				1	- 自治体：モンゴル ウブスハンガイ県 - 行 事：「Ice challenge」大会 - 期 間：12/2～12/3 - 場 所：ウランツタガラン滝 - 連絡先：ウブスハンガイ県 自然観光局 (T)+976-99096911 (E) info@uvurkhangaitravel.com	2
4	5	6	7	- 自治体：ロシア アルタイ地方 - 行 事：祝祭「アルタイの越冬」 - 期 間：12/8～12/11 - 場 所：アルタイ地方 - 連絡先：アルタイ地方 観光・休養・地域間・国際関係部 (T/F)+7-3852-20-10-31 (E) priem@altur22.ru tourism22@mail.ru	9	10
11	12	13	14	15	16	17
18	19	20	21	- 自治体：ロシア ノヴォロフスク地方 - 行 事：博覧会「新年プレゼント2017」 - 期 間：12/22～12/25 - 場 所：ノヴォロフスク市 - 連絡先：(株)ノヴォロフスク国際博覧会 (T)+7(4212) 566-129, 566-882, 567-614 (E) 001@khabexpo.ru	23	24
25	26	27	28	29	30	31



第11回 NEAR 総会の開催

[宣言文]

2016年9月27日、ロシア・イルクーツク州で北東アジア地域自治体連合第11回総会が開催された。

総会には、中華人民共和国、日本国、大韓民国、モンゴル国、ロシア連邦の5か国30会員自治体・オブザーバーの代表と韓国・中国・モンゴル・朝鮮民主主義人民共和国の外交関係者等が出席した。

開幕式に引き続く第1セッションでは、第10回NEAR実務委員会の結果報告、事務局の主要活動報告、分科委員会の活動報告等の連合の主要活動報告と、会員自治体の紹介等の発表が行われた。第2セッションでは、新規会員加入の承認、次期議長団体の決定、分科委員会コーディネート団体の交代、会費制運営規程制定と憲章改定について討議と議決が行われた。

総会に上程された議案についての議決事項は次のとおりである。





1. 連合新規会員加入

連合の新規会員として、中華人民共和国・陝西省、内モンゴル自治区、山西省、安徽省の加入を満場一致で議決した。

2. NEAR次期議長団体の決定

2018年第12回総会を開催する今後任期2年の議長として、中華人民共和国・湖南省を選出することで議決した(計77団体のうち51団体が議決権を行使し、賛成50、反対1)。なお、連合憲章第10条に基づき、湖南省は議長団体として2017年の実務委員会も開催する。

3. 分科委員会コーディネート団体の交代

正常に開催されていない、エネルギー・気候変動、国境地区協力、女性・児童分科委員会のコーディネート団体交代に係る推進結果について事務局から報告された後、中国・山西省の申請に基づき、エネルギー・気候変動分科委員会のコーディネート団体を韓国・大邱広域市から中国・山西省に交代することを議決した(計77団体のうち51団体が議決権を行使し、賛成50、反対1)。残りの2分科委員会のコーディネート団体交代は、2017年第11回実務委員会に上程し推進することを決定した。また、連合の発展のため、分科委員会活性化に向けて持続的に努力することとした。

4. 会費制運営規程制定

第10回実務委員会で議論し、事務局が会員自治体の意見を取り入れて作成した会費制運営規程(案)を議決した(計77団体のうち51団体が議決

権を行使し、賛成45、反対6)。会費は全会員自治体に対して年会費1,000USドルを均等に賦課する定額制で運営し、導入時期については2018年から会費を納付することとした。また、会費の使途としては、連合の発展と会員自治体の共同目的に合致するプログラムやプロジェクトの遂行に使用することとした。併せて、既存の事務局運営による経常運営費は、慶尚北道が継続的に負担することを確認した。

5. 連合憲章改定

時代の流れに効率的に対応し、連合の地位を向上させ、運営を活性化させるため、憲章の内容の一部を次のとおり改定した(計77団体のうち51団体が議決権を行使し、賛成47、反対4)。

第一に、憲章第4条(会員の範囲)を改定するとともに、準会員制に関する規定として憲章第4条の2を新設し、北東アジア以外のアジア地域に位置する広域自治体も連合の活動に参加できることとした。併せて、第5条の2(準会員の権利・義務)を新設した。

第二に、憲章第6条に規定する総会の構成員を「会員自治体の代表」から「会員自治体の首長」と具体的に明示し、総会の最高議決機関としての機能に合致するよう改定した。



現地視察

総会終了後、参加者はイルクーツク州のタルチ民族博物館、バイカル湖等を視察し、ロシアの民族文化やシベリアの自然環境を体験した。



第三に、憲章第7条(役員)を改定し、監事の選出に関する規定を整理した。

第四に、憲章第8条に規定する現行の10の総会の機能に「会費運営規程で定める事項の承認」を追加するとともに、順序の再配列を行った。また、第9条を改定し、「第8条第1号から第5号の事項は、議決権を有する会員の過半数の出席と、出席した会員の3分の2以上の賛成により議決する。」とすることとし、「第8条第6号から第11号の事項は、議決権を有する会員の過半数の出席と、出席した会員の過半数の賛成により議決する。」とすることとした。

第五に、憲章第9条の2を新設し、総会の機能のうち、総会が開催されない年度の「会員及び準会員の入会及び除名の議決」、「予算・決算及び事業計画の承認」、「会費運営規程で定める事項の承認」を実務委員会に委任して議決することができるようにした。

第六に、連合の会費制導入の決定に基づき、憲章第15条の「会費は負担しないこととする。」との規定を改定した。



20th ANNIVERSARY OF NEAR

NEAR 創立20周年 記念行事

共同の平和、繁栄、団結の東北アジア新时代
平和と繁栄で一つになる新・北東アジア時代を切り開いています。
평화와 번영의 하나되는 신동북아시대를 열어 나가겠습니다

Холбоотой ажиллагаа, зүүн хойт Азийн шинэ эрин үеийг бий болгох



NEARが2016年に創立20周年を迎えたことから、イルクーツク市・フィルハーモニー国立劇場で記念行事を行った。記念行事では、中国・吉林省、日本・兵庫県、韓国・慶尚北道、モンゴル・ドンドゴビ県、ロシア・イルクーツク州の代表者による北東アジア地域の繁栄と調和のための共同宣言が行われ、イルクーツク州知事から次期議長団体である中国・湖南省に宣言文が伝達された。その後、慶尚北道道立国楽団、イルクーツク州伝統芸術団による芸術公演を鑑賞した。



2016 北東アジア 青年リーダース フォーラム 後記

中国

中国人民大學校 経営大学 毕一博

「2016北東アジア青年リーダースフォーラム」に参加することができて非常に光栄であり、各国の青年達に貴重な交流の機会を提供してくれた北東アジア地域自治体連合に感謝します。国境を超えた青年達のフォーラムは、参加者が相互の違いを乗り越え、分かち合うことを教えてくれました。

6日間という短い時間の中で、中国、日本、韓国、モンゴル、ロシアの5か国から集まった約80人の青年が、政治、経済、人文、資源、環境等の7つのテーマについて熱く議論を交わしました。青年達の情熱、そして、各国の若い「使節」達と会うことができた喜びは、今でも鮮明に記憶に残っています。

美しい東国大学のキャンパスでは、まるで故郷に戻ってきたかのような気分を感じました。故郷は自分の母国に限りません。私は、青年リーダーが今後追求すべき道は、北東アジアの皆が各国と手を取り合い、協力と発展を進めていくことだと思います。真夏の慶尚北道で、私は友情を築きました。韓国の友人からモンゴルの友人まで、私達は互いに本心で向き合い、白熱した議論の中で真の友情を深めることができました。また、親切的な韓国で美しい思い出を作ることができました。仏国寺の静けさと浦項港の賑やかさ、そして色とりどりのご馳走まで、全てが2016年8月の美しい記憶として残っています。NEARの青年リーダー達が互いに競い合いながら積極的に努力を重ね、北東アジア地域でその能力を発揮することを願います。最後に、NEARの益々の発展を祈念します。



韓国

東国大学校 韓国語学・文学学科、チョン・ジェウォン



フォーラムが終わって1か月が過ぎた今もまだ、メッセージのタイムラインを通じて、参加者達から手紙が送られてくる。「韓国で過ごした思い出、そして温かい参加者の皆が懐かしい」と。大学の講義室の廊下で、知っている人の顔が見えた。フォーラムで出会った懐かしい顔だった。フォーラムで配られたシャツを着て、今でもその瞬間を忘れられないと語り合った。東国大学校出身の参加者が多かったため、キャンパスを歩いているとよく懐かしい人に出会う。私にとっても8月のフォーラムは真夏の燃え上がる炎であり、その興奮が覚めるまでに随分時間がかかったが、驚くことに、他の参加者にとっては今でも忘れられない熱い炎だということだ。

私が所属していたAチームのテーマは「文化多様性を通じた北東アジアの発展方策」であった。初めての参加であり、同行者もおらず心配だったため、その分準備に励んだ。初めてテーマを提示されたときは、テーマの指す範囲が広く、戸惑った。テーマについて色々な方向から提案することができるため、どのようなアプローチで取り組むか、どう対応策を提示するか、漠然としていた。そのためか、初めてのディスカッションの場は静かだった。まだ参加者間のぎこちない空気も残っており、どのように話を始めるか悩んでいる様子が見られた。しかし私達は一步步足並みを揃え、プレゼンテーションを完成させることができた。チームの皆で成し遂げた初の成果であり、その結果はともかく、大きな意味があった。

また、フォーラムに参加し、ロシア、モンゴル、中国、韓国、日本の人達と会い、楽しい時間を過ごすことができた。一緒に慶州や浦項の至る所を見て回り、美味しい物を食べ、踊ったり歌ったりして思い出を作った。忘れられない楽しい時間を過ごし、大切な友人と出会うことができた。また、フォーラムでのロシア、モンゴル、中国、韓国、日本の参加者間の相互の対話や交流を契機に、多文化的な視点を養うことができた。最後に、今回のフォーラムに参加できる機会を与えてくれた東国大学校と、フォーラム開催にご尽力いただいたNEAR事務局に心から感謝します。初めての青年リーダースフォーラムが成功に終わったように、今後開催されるフォーラムにも期待します。



モンゴル

オブス県、マラルエルデン



私は初めて国際的な青年フォーラムに参加し、多くの友人を作り、様々な経験を積むことができました。フォーラムには約80人の青年が参加しましたが、私はそのうちモンゴル、ロシア、韓国、中国から参加した10人の青年と一緒に、Eチームに所属することになりました。それぞれ考え方も異なる中で、北東アジアの発展のため、与えられたテーマについて英語で白熱した議論を交わしました。チーム別の会議では、メンバーがそれぞれ意見を述べると同時に、他国の青年達と調和する方法を学ぶ良い経験になりました。ディスカッションの時間以外にも様々なプログラムに参加し、忘れられない思い出となりました。例えば、浦項の迎日台海水浴場や、慶州の雁鴨池(アンアプチ)、仏国寺を見てきました。主催側の準備により、フォーラムは非常に良い形で開催されたと思います。その一例として、フォーラム参加者の部屋割りをランダムにし、他国の参加者と同じ部屋を使うことで、お互いをもっとよく知るきっかけを作ってくれました。一つの提案としては、もっと弾力的に日程が組まれれば良いのではないかと考えています。私たち青年は自国の未来であるとともに発展の原動力であり、今後、北東アジア地域の青年達のため、多くの活動が実施されることを願っています。最後に、今回のフォーラム開催にご尽力いただいた北東アジア地域自治体連合事務局と、事務局のモンゴル関係者に心より感謝申し上げます。



ロシア

マガダン州青年議会 経済財政及び企業委員会委員長、アレクセイ・モストブシコフ



私は青年リーダースフォーラムで、ロシア、中国、韓国、モンゴル、日本の青年リーダー達に出会った。彼らと友達になり、ソーシャルネットワークの連絡先を交換した。ディスカッションのテーマは「北東アジア地域間の民間交流活性化」であり、私は商品流通の拡大と経験の共有、国の経済発展を加速化させるために「NEAR傘下の国際青年企業家連合」の設立を提案した。他の参加者からは「北東アジア諸国における自由貿易地区の設立」も提案された。

現在、国家間の戦略上、力の均衡が脅威にさらされており、いくつかの国の政治エリート間の情報戦争が猛威を振るっているが、これよりも重要なことは、北東アジア地域を含む全世界が友好関係を結ぶことだと思う。民族間の友情と協力を強化し、相互の理解の幅を広げるため、互いの生活、歴史、文化について知るべきである。北東アジア国家間の民間交流をもとに、私達はメディアから大衆に提供される情報との相違点を知ることができ、それぞれの国、民族の性格と特徴を理解することができる。「十回聞くよりも、一度見た方がよい」というロシアの諺のように、正しく交流するためには、自分達の立場から発信されるメディアの情報ではなく、実質的なその国の内情を知ることがとても重要である。

北東アジア諸国は、大規模な戦争を防ぎ、効果的に国際テロに対処するなど、世界平和に大きく貢献している。そのため、私達は文化や経済協力における様々な問題解決の経験を共有し、国家間の相互理解を強化するために親密な関係を形成しなければならない。

北東アジア諸国のうち、マガダン市は中国・通化市と姉妹都市である。姉妹都市間のネットワークを発展させ、友好関係を深めるためには、互いの友情関係に基づく相互の訪問が重要だと考えている。



第4回 青少年エッセイ ・絵画等コンテスト (絵/ポスター部門) 受賞作品の紹介

NEAR青少年エッセイ・絵画等コンテスト」は、会員自治体の青少年(14～18歳)を対象に2013年から実施しており、今年で4回目を迎えた。今年は「エッセイ部門」に加え、「母国の文化紹介」「北東アジアの環境問題」を作品のテーマとした「絵/ポスター部門」を新設。5か国から46作品の応募があった。

今月号では、絵/ポスター部門の受賞作品を紹介する。(エッセイ部門の受賞作品は、次号以降順次掲載予定。)



最優秀賞 — 「自然保護」

ロシア・サハ共和国 ベルディグスタフスカヤ中学校
マルコバ・サイーナ



優秀賞 — 「立派な文化遺産を大切に保存し、子孫に受け継がせる」

韓国・慶尚北道 慶州堇花女子高等学校
ファン・ミンジ



優秀賞 — 「おどって！ねぶた祭りを盛り上げよう！」

日本・鳥取県 米子市立加茂中学校
松岡 風香



奨励賞 — 「青い水、青い空(碧水藍天)」

中国・山東省 済南市青少年宮
薄馮永慧

「北東アジア国家の歴史文化財の保護」

モンゴル・ヘンティール県 一般教育学校
ムンフバトゥ・エンフバタル

奨励賞

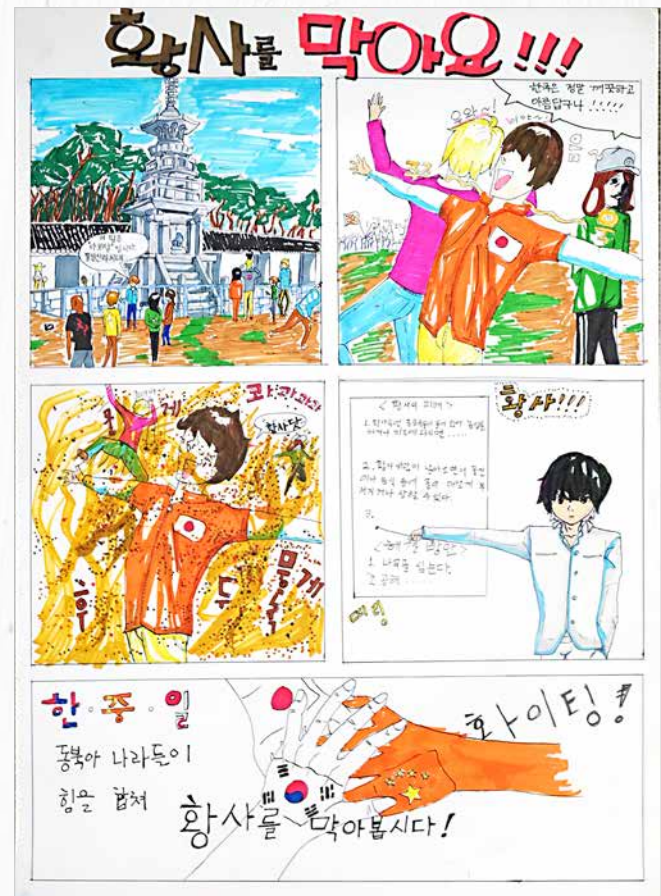


奨励賞 — 「皆に十分な量の魚を」

ロシア・ハバロフスク地方 バルラダ児童創作センター
ブシュベンコ・エリザベタ

奨励賞 — 「黄砂を防ごう」

韓国・慶尚北道 星州修倫中学校
チェ・ジウォン





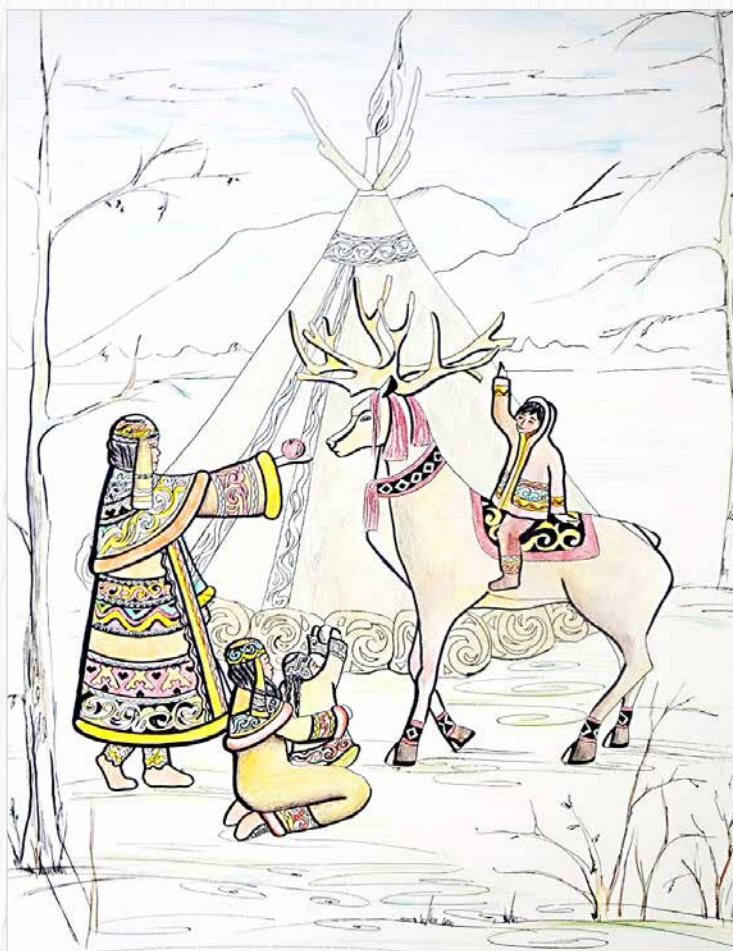
奨励賞 — 「工業文明」

中国・山東省 済南市青少年宮
曲層志



奨励賞 — 「美しい。それが私達の大韓民国だ。」

韓国・慶尚北道 英陽女子中学校
パク・チェリン



奨励賞 — 「故郷」

ロシア・ハバロフスク地方 地域教育センター学校
グラフ・アナスタシヤ

The Association of Northeast Asia Regional Governments



北東アジア地域自治体連合

The Association of Northeast Asia Regional Governments

(37668)慶尚北道浦項市南区芝谷路394 浦項 テクノパーク本部棟3階

T. +82-54-223-2317 F. +82-54-223-2309 E-mail near@neargov.org Homepage www.neargov.org